



町長エッセイ



ツバメの話のその2・・・町の広報6月号にエッセイとして記述しましたツバメのことです。我が家の軒先に巣を構えた新婚ツバメの続編です。

6月のある日、2羽の内の1羽が巣にこもり出しました。どうやら卵を生んだようで一生懸命温めているようです。

1週間か10日間位でしょうか、時が過ぎました。小さなカワイイヒナ数羽が巣から顔を出すと、2羽の親ツバメが交替しながら取ってきたばかりのエサ(虫でしょうか?)をヒナに与えています。しばらく観察してみると、よくもまあ順序よくヒナの口へ入れていて、ヒナも我れ先にと大きく口をあけ、ピーピーとアピールしています。小

さな巣は5、6羽いるきょうだいには狭いようで、押し合いながら過ごしています。食事の後にはお決まりのようにフンを巣の外へ出し、我が家の軒先周辺では、その後始末を余儀なくされています。夜になると親ツバメは心配な様子で、玄関の上方に控え、寝ているかどうかこちらが心配になります。たまに目が合うと、こちらもガンバッテいるねと小声を出すと、ツバメはヒナには手を出さないでねとでも言わんばかりの表情でした。

最近のニュースの話題では、あの大きい黒い羽根や赤い大きな口バシが特徴の「ミナミジサイチョウ」のことを思い出しました。南国からやってきた鳥のようで、飼われていたものが逃げ出し、1年半以上野生生活をしていたようです。それでも捕獲され無事に元へ戻されました。同じ鳥でも境遇の違いに複雑な思いでした。

さて、我が家のツバメはもうじき巣立ちするようです。ある話では、不思議と大安の日に旅立つとのことですが、いつの日になるのか楽しみと、チョッピリの寂しさが入り交じり、また次も歓迎して待っているよと話しかけました。

松本恒夫